



令和3年度
東京大学アジア研究図書館
活動報告書

令和3年度東京大学アジア研究図書館活動報告書目次

1.	令和3年度の特記事項	1
2.	図書事業	2
2.1	資料のデジタル化	2
2.2	利用者サービス、広報	2
(1)	利用者サービス	2
(2)	広報	2
2.3	規則策定	2
(1)	資料収集基準の策定	2
(2)	アジア研究図書館における国際交流協定の検討に関する申し合わせ策定	3
2.4	資料の収集・管理	3
(1)	移管の進捗	3
(2)	アジア研究図書館選書委員会	3
(3)	購入資料	3
(4)	寄贈資料一覧	5
2.5	学内との連携	5
(1)	新任教職員研修への登壇	5
(2)	学生協働	5
(3)	「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携	5
2.6	社会連携活動	6
(1)	国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加	6
2.7	海外機関との連携	6
(1)	TRCCS	6
2.8	図書関係ワークショップ	6
(1)	アジア資料目録作成ワークショップ（現代ウイグル語編）開催	6
2.9	アジア研究図書館会議	6
(1)	運営委員会	6
2.10	統計	7
(1)	蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数の経年変化	7
3.	研究事業	9
3.1	シンポジウム・学会等の開催・参加	9
(1)	人文社会科学系組織連絡会議共同シンポジウム	9
(2)	U-PARL 第3回協働型アジア研究オンラインセミナー「古代エジプト資料の記録、分析、利活用を考える」	9
3.2	成果の公開	9
(1)	アジア研究図書館叢書	9
(2)	研究成果の刊行	9
(3)	学術誌・専門誌等への寄稿	9
3.3	協働型アジア研究拠点の形成	9
3.4	個人研究業績	10

(1) RASARL メンバー	10
(2) U-PARL メンバー	14
4. 構成員等名簿	21
4.1 運営委員会名簿	21
4.2 構成員名簿	21
別紙 1	22

注記：

東京大学附属図書館にはアジア研究図書館研究開発部門およびアジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の2部門が存在している。本報告書では略称を用い、前者を RASARL

(Research Advancement Section for the Asian Research Library)、後者を U-PARL (Uehiro Project for the Asian Research Library) と表記する。U-PARL は国立大学法人東京大学の運営費ではなく公益財団法人上廣倫理財団からの寄付金によって運営されている。そのため U-PARL の予算を使用した活動についてはその旨明記した。

1. 令和3年度の特記事項

館長 城山智子

アジア研究図書館は、令和2年10月に閲覧室を含めて開館した。令和3年4月には、館長が小野塚知二（経済学研究科）から城山智子（経済学研究科）に交代した。また、研究開発部門が、専任教員（准教授1名、助教2名）を配置して、開設された。具体的な活動として、資料収集基準を定め、選書委員会を設置して、コレクションの構築を進めるとともに、アジア研究図書館叢書の刊行を開始した。

2. 図書事業

2.1 資料のデジタル化

令和3年度はユネスコ・アジア文化センター（ACCU）識字教育資料のうち、主に『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録1』に収録されるポスター類のデジタル化を行った他、AV資料のデジタル化も進めた（関連項目：3.2(1)アジア研究図書館叢書）。

またU-PARLでは『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション』を構成する「碑帖拓本コレクション」へ以下の資料を追加し公開した。

- ・曹全碑*
- ・集字聖教序
- ・関中本真草千字文
- ・玄秘塔碑
- ・洛神賦十三行
- ・争坐位稿*
- ・洒先瑩記
- ・顔氏家廟碑
- ・張遷碑
- ・曹全碑*
- ・争坐位稿*

*ここに含まれる同名資料は、それぞれ版が異なるものである。

2.2 利用者サービス、広報

(1) 利用者サービス

本学の全学事業「オンキャンパスジョブ活用による新図書館の効果的運用」を利用し、博士課程学生4人をカウンタースタッフとして雇用し、貸出業務や利用者対応等を行った。当該学生らはカウンター業務の他、アジア研究図書館所蔵資料の整理業務も担当した（関連項目：2.5.2 学生協働）。

(2) 広報

A. ニュースレター発行

令和3年度は第3号（令和3年4月1日発行）、第4号（令和3年7月1日発行）、第5号（令和3年10月1日発行）、第6号（令和4年1月11日発行）、合計4号を発行し、当館ウェブサイトで公開した。

参考URL：<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/newsletter>

B. 図書館総合展

令和3年11月1～30日に開催された第23回図書館総合展_ONLINE_Plusポスターセッションに参加した。同セッションでは当館の概要や蔵書等について紹介を行った。

参考URL：<https://www.libraryfair.jp/poster/2021/18>

2.3 規則策定

(1) 資料収集基準の策定

令和3年9月27日に開催された令和3年度第5回運営委員会にて東京大学アジア研究図書館資料

収集基準について協議が行われ、了承された（巻末別紙1参照）。

(2) アジア研究図書館における国際交流協定の検討に関する申し合わせ策定

令和3年9月27日に開催された令和3年度第5回運営委員会にてアジア研究図書館における国際交流協定の検討に関する申し合わせについて協議が行われ、了承された。

2.4 資料の収集・管理

(1) 移管の進捗

令和3年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が14,461冊、購入分が387冊、寄贈分が477冊で合計15,325冊であった。これにより3月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は49,710冊（うち自動書庫入庫冊数は4,908冊、開架蔵書冊数は44,802冊）となった。

さらに令和4年度に向けて、アジア研究図書館資料の自動書庫への入庫を前提にした部局からの移管の準備として、移管希望調査を行った。

(2) アジア研究図書館選書委員会

「東京大学アジア研究図書館資料収集基準」に基づきアジア研究図書館選書委員会が設置され、令和3年11月22日に第1回選書委員会会議が開催された。選書委員会の構成は以下の通り。

委員長 森本一夫		
担当地域	主担当	副担当
1 アジア	永井正勝	
2 東アジア	鈴木舞	荒木達雄、中尾道子
3 東南アジア	澁谷由紀	
4 南アジア	河崎豊	須永恵美子
5 中央ユーラシア	河原弥生	宮本亮一
6 西アジア	徳原靖浩	永井正勝
事務局	原香寿子	

(3) 購入資料

A. 購入資料

1. アジア

幅広い分野のアジア研究の可能性を確保する観点から、従来手薄であった法学・政治学関係の和洋書12点を補充したほか、アジアのアトラス、音楽、難民、建築、映画、パンデミック、アジアにおける日本文化に関する資料11点を選書した。

2. 東アジア

東アジアについては、『傅斯年図書館蔵未刊稿鈔本』のうち、史部（全36冊）を購入した。同シリーズのうち、子部（全20冊）は既にTRCCSに所蔵済みであり、方志（全31冊）を令和3年度にTRCCSの受贈希望書としている。そのため令和3年度には国内に所蔵がない史部の購入を行った。

3. 東南アジア

英語で記述された研究書を重視し、欧米各国およびフィリピンの大学出版会等より平成29年令和3年にかけて出版された図書38冊を購入した。ほかにタイ語ことわざ辞典1冊、マレー語大辞典1冊、仏領期カンボジア関係資料集1タイトル2冊を購入した。地域別では、東南アジアの各地域のものをバランスよく選定し、また東南アジアと他の地域にまたがるもの、東南アジア全域を扱うものも含めた。主題別では人文科学と社会科学が多数を占めたが、保健衛生、建築、農業、水利、工芸、スポーツも含めた。

4. 南アジア

インドについては、グジャラート語で書かれた主としてジャイナ教に関する資料やグジャラート語百科事典を中心に揃えた。パキスタンについては、現地出版社を中心に、文化、言語、メディア、宗教思想、スィク教、生物、疫学と幅広く選定した。そのほかに、ほぼ扱いのなかったディヴェヒ語の文法書を購入した。また、アジア研究図書館で揃えている植民地インドのガゼッタ（官報）のうち、欠号になっていたナワーブシャー県の巻を購入した。

5. 中央ユーラシア

中央ユーラシアについては、19～20世紀の中央アジア史研究、古代中央ユーラシア諸語の言語学研究、草原考古学発掘調査報告書を購入した。また、古書店を通じて、主にトルコにおける現代ウイグル語出版物から成るウイグル人移民コミュニティの資料コレクション（全93点）を購入した。

6. 西アジア

西アジアに関しては、開架フロアに必要な辞書類を中心に、人名録、研究入門書などの参考図書を購入したほか、東大全体の蔵書構成を考慮しつつ、古代語の文法書および現代中東の文化やイスラーム主義に関する分野から、学内に所蔵のないものを選んで購入した。

B. データベース

令和3年度には以下の5点のデータベースを導入した。

データベース名称	概要
『中華経典古籍庫』第8期*	中国で刊行された書籍のデータベース
Myanmar Book Centre (MBC) Membership Programme*	ミャンマーにおける写本・学術記事・電子書籍・新聞記事や雑誌などのデータベース
Index Buddhicus Online	仏教学に関する包括的書誌データベース
Russian Military Intelligence on Asia Online: Secret Prints, 1883-1914	アジアにおけるロシアの軍事諜報活動に関する機密文書を収録したデータベース
Russian Military Intelligence on Asia Online: Archive Series, 1651-1917	ロシア国立軍事歴史文書館所蔵文書のデータベース

*はU-PARLによって導入されたものである。

(4) 寄贈資料一覧

当館ではアジア研究者・諸機関から寄贈資料を受け入れてきた。令和3年度末時点で受入れが決定しているコレクションは以下の通りである。

名称	寄贈年度	内容	点数
ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)旧蔵資料	2014	ACCUが収集したアジア太平洋地域の識字教育資料	約3,600
高瀬弘一郎氏旧蔵資料	2021	キリシタン史研究に関するコレクション	約4,000
水島司氏旧蔵資料	2021	南アジア経済史に関する資料	約3,200
柳沢悠氏旧蔵資料	2021	南アジア経済史に関する資料	約500
南アジア地域研究東京大学拠点収集資料	2022	現代インド諸分野に関する資料	約450
田辺明生氏旧蔵資料	2022	インド・オリッサ地方地方に関する資料	約750
桜井由躬雄氏旧蔵資料*	2015	ベトナム史・社会文化関係資料	約2,200
古田元夫氏旧蔵資料*	2016	ベトナム現代史関係資料	335
末廣昭氏旧蔵資料*	2016	タイ政治・経済・社会関係資料	1,536
辛島昇氏旧蔵資料*	2017	南アジア史に関する資料	約1,500
奈良毅氏旧蔵資料*	2019	ベンガル語・文学関係資料	266
生越直樹氏旧蔵資料*	2019	韓国朝鮮語学関係資料	454

注) 点数は整理の過程で増減する場合があります、いずれも令和4年3月31日時点のものである。

また、*はU-PARLが整理中の資料である。

2.5 学内との連携

(1) 新任教職員研修への登壇

河原准教授が令和3年12月23日に開催された図書系初任者研修に登壇し「アジア研究図書館とその活動」と題した報告を行った。

(2) 学生協働

本学の博士課程学生支援オンキャンパスジョブ事業を利用し、当館所蔵資料の整理業務を行った。令和3年度にはフィリピン、マレーシア、ベトナム、ラオス、インドネシア、バングラデシュ、インド、ネパール、パプア・ニューギニアの諸言語およびオスマントルコ語、アラビア語の整理を行った。この他、カウンター業務でも学生と協働している。(関連項目: 2.2.(1)利用者サービス)

(3) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携

本学教員の著作について執筆者自らが紹介を行うUTokyo BiblioPlazaに河原准教授・鈴木助教両名の著作が掲載された。河原准教授は、*Private Archives on a Makhdūmzāda Family in Marghilan, Central Eurasian Research Series no. 7* (TIAS: Department of Islamic Area Studies Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 2012) について紹介を行い、鈴木助教は『殷代青銅器の生産体制—青銅器と銘文からみる工房分業—』(六一書房、2017) について紹介を行った。

2.6 社会連携活動

(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加

国立国会図書館関西館アジア情報室が平成13年度より開催しているアジア情報関係機関間の交流を図り、国全体としてのアジア情報資源の充実とアジア情報の流通促進に資することを目的とする国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会に参加し、河原准教授が報告を行った。今年度は「コロナ禍におけるアジア研究・教育支援」をテーマとし、令和4年2月18日にWeb会議の形式で開催された。

河原准教授は「アジア研究図書館の始動：全学組織としての体制構築に向けて」と題した報告を行い、当館の活動や所蔵資料について報告を行い、個別報告後の懇談時間には各機関の図書関係者と情報交換を行った。報告資料は国立国会図書館ウェブサイトで公開されている。

2.7 海外機関との連携

(1) TRCCS

台湾漢学リソースセンター（TRCCS）との協定に基づき、令和3年度も資料の寄贈を受けた。寄贈候補リスト受領後、令和3年5月に2度の選書委員会を開催し寄贈希望リストを作成した。令和3年度は合計70冊受贈し当館に配架された。

2.8 図書関係ワークショップ

(1) アジア資料目録作成ワークショップ（現代ウイグル語編）開催

U-PARLの行う図書館機能開拓研究に関する活動として令和3年8月4日にアジア資料目録作成ワークショップ（現代ウイグル語編）が開催された。本ワークショップは図書館関係者のみならず、アジア資料の整理に関心を持つ幅広い対象に向けてオンライン形式で開催され、図書館関係者を中心に43人が参加した。本ワークショップでは河原准教授が「現代ウイグル語資料の概要と目録作成」と題した報告を行い、質疑応答および意見交換を行った。本ワークショップはU-PARLおよび協働型アジア研究プロジェクト「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成マニュアルの作成」（代表：徳原特任助教）が主催し、RASARLが協力を行った。

2.9 アジア研究図書館会議

(1) 運営委員会

今年度の運営委員会は以下の通り開催された。

	開催日	出席委員数
第1回運営委員会	令和3年4月26日	11名
第2回運営委員会	令和3年5月24日	11名
第3回運営委員会	令和3年6月21日	11名
第4回運営委員会	令和3年7月19日	11名
第5回運営委員会	令和3年9月27日	9名
第6回運営委員会	令和3年10月25日（メール審議）	－
第7回運営委員会	令和3年11月22日（メール審議）	－
第8回運営委員会	令和3年12月20日	11名
第9回運営委員会	令和4年1月24日（メール審議）	－
第10回運営委員会	令和4年2月21日	11名

この他、RASARL・U-PARL間の部門間連絡会議（毎月1回）、RASARL・事務部間の事務部連絡会（隔週）も開催された。

2.10 統計

(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数の経年変化

配架冊数経年変化		単位：冊	
地域分類別（大型本含む）		2020年度末 配架冊数	2021年度 末配架冊 数
1	アジア(東洋文庫を含む)	2,051	2,707
2	東アジア	10,319	13,629
3	東南アジア	3,067	4,465
4	南アジア	5,680	6,618
5	中央ユーラシア	1,839	2,620
6	西アジア	4,746	6,739
TRCCS	TRCCS	651	726
R1	参考図書（アジア）	14	30
R2	参考図書（東アジア）	370	394
R3	参考図書（東南アジア）	175	190
R4	参考図書（南アジア）	245	283
R5	参考図書（中央ユーラシア）	145	155
R6	参考図書（西アジア）	209	214
合計		29,511	38,770

2. 図書事業

貸出数・資料費総額経年変化		
	令和2年度	令和3年度
貸出数（冊）	592	1,778
資料費（RASARL）	-	8,642,959
資料費（U-PARL）	8,771,920	4,248,191
資料費合計	8,771,920	12,891,150
注）貸出数は自動書庫資料の館内閲覧数も含む。		
資料費はデータベース購入費も含む。		
令和2年度はこの他に総長裁量経費を4,998,622円使用した。		

3. 研究事業

3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加

(1) 人文社会科学系組織連絡会議共同シンポジウム

当館が参加する本学の人文社会科学系組織連絡会議の活動として、令和4年3月9日にウェビナー形式で開催された共同シンポジウム「人文社会科学の構想力」に参加した。本ウェビナーでは5人の報告者による報告が行われ、当館からは河原准教授が「学術資産と研究拠点：コレクション構築と知の接続ハブとしてのアジア研究図書館」と題した報告を行った。その後、他のパネリストらとともにパネルディスカッションを行った。

(2) U-PARL 第3回協働型アジア研究オンラインセミナー「古代エジプト資料の記録、分析、利活用を考える」

U-PARL協働型アジア研究プロジェクト「オリエント世界を対象とした研究資源のデジタル化とその利活用に関する研究」（代表：永井正勝）主催による、教職員・学生・一般を対象としたオンラインセミナーが令和3年9月3日に開催された。本セミナーでは「過去の資料」と「現在の研究者の研究行為（資料の記録・分析・利活用）」の接点を巡る現状を確認すべく、最初に人文学的な問いやデジタル技術の扱いを含めた内容が報告された。その後、報告から浮かび上がる論点について議論が行われた。

3.2 成果の公開

(1) アジア研究図書館叢書

「アジア研究図書館叢書」の刊行を開始した。令和3年度は第1巻として『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録1』を刊行した。本目録は平成26年にユネスコ・アジア文化センター（ACCU）から受贈したアジア太平洋地域の識字教育資料のうち、アフガニスタン（37点）、中国（251点）、イラン（104点）、モンゴル（124点）、ウズベキスタン（3点）の5カ国計519点の書誌を収録している。

(2) 研究成果の刊行

アジア研究図書館の研究活動の一環として、鈴木舞編『契丹金工品の調査と研究—日本所蔵コレクション資料を中心に—』（東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2022年3月）を刊行した。

(3) 学術誌・専門誌等への寄稿

アジア研究図書館の活動に関して以下の寄稿を行った。主に当館設立の経緯・目的、研究図書館としての概要等について紹介を行った。

河原弥生「東京大学アジア研究図書館とサブジェクト・ライブラリアン」『図書館雑誌』第116巻第1号

3.3 協働型アジア研究拠点の形成

令和3年度にはU-PARLにて以下の7つの研究プロジェクトが実施された。

「オリエント世界を対象とした研究資源のデジタル化とその利活用に関する研究」（代表：永井正勝）

「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成マニュアルの作成」（代表：徳原靖浩）

- 「東京大学所蔵水滸伝諸版本に関する研究」（代表：荒木達雄）
 「「ジャイナ教混淆サンスクリット辞典」構築のための基礎的研究」（代表：蓑輪顕量）
 「ムハンマド・ハキーム・ハーン著『選史』チャガタイ語訳写本の研究」（代表：蓑輪顕量）
 「海外フィールドワーク収集データのオープン化に関する研究：村落研究を事例に」（代表：澁谷由紀）
 「壬辰戦争からみる16・17世紀東アジア」（代表：中尾道子）

3.4 個人研究業績

期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

略号：①書籍②雑誌論文・本の一章③その他刊行物等④口頭発表⑤受賞⑥競争的資金⑦社会活動・教育活動等

(1) RASARL メンバー

城山智子（館長・RASARL 部門長・兼務教員/大学院経済学研究科）

- ①Chi-cheung Choi, Tomoko Shiroyama, and Venus Viana, ed. *Strenuous Decades: Global Challenges and Transformation of Chinese Societies in Modern Asia*, Berlin: Mouton De Gruyter, 2022.
 ②Tomoko Shiroyama, “The Distant Thunder? Reconsidering the Impacts of the Great Depression on China.”, Chi-cheung Choi, Tomoko Shiroyama, and Venus Viana, ed. *Strenuous Decades: Global Challenges and Transformation of Chinese Societies in Modern Asia*, Berlin: Mouton De Gruyter, 2022.
 ④Tomoko Shiroyama and Chang LIU, “Spatiotemporal Analysis of 1931 Yangzi River Flood.” Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS) Webinar “GIS-based Analysis of “Environmental Changes and Natural Hazards in Asian History” (April 24-25, 2021)（招待）.
 ④城山智子「近代中国における水・社会・国家」東大水フォーラム主催・公開シンポジウム「持続可能な社会と水② 水循環と物質循環」オンライン開催、2022年2月16日（招待）
 ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（S））「近代アジアにおける水圏と社会経済—データベースと空間解析による新しい地域史の探求」課題番号 17H06116、研究代表者、2017年度～2021年度
 ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「中印比較史の創生 データベースに基づく総合的研究」課題番号 21H04361（研究代表者：村上衛）、研究分担者、2021年度～2024年度

森本一夫（RASAL・U-PARL 兼務教員/東洋文化研究所）

- ②森本一夫「序」ハーシェム・ラジャブザーデ編著；江浦公治協力；森本一夫序文『カーギヤール朝期イランの市場・店舗・隊商宿関連文書』（ペルシア語文書集成，8）東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2021年11月、1頁
 ②Kāzū'ū Mūrīmūtū, “Moqaddame” (Introduction), in Hashem Rajabzadeh, Kinji Eura (with the cooperation of), Kazuo Morimoto (a preface by), *Bazaars, Stores, and Caravanserais in the Documents from Qajar Iran*, “Persian Documents” Series, No. 8, Tokyo: Research and Information Center for Asian Studies, Institute for Advanced Studies on Asia, University of Tokyo, 2021.11, p. 5 (in Persian).
 ②森本一夫『『イスラーム世界』という言葉：使うか、使わないか』吉澤誠一郎監修；石川博樹ほか編著『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』ミネルヴァ書房、2021年12月、72-73頁
 ②森本一夫「序」ハーシェム・ラジャブザーデ編著；江浦公治協力；森本一夫序文『文書史

料にみるカージャー朝期のマーザンダラーンとアブドルマレキー部族』(ペルシア語文書集成, 9) 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2022年1月、1-2頁

②Kāzū'ū Mūrīmūtū, “Moqaddame” (Introduction), in Hashem Rajabzadeh, Kinji Eura (with the cooperation of), Kazuo Morimoto (a preface by), *Mazandaran and the Abdolmaleki Tribe in the Documents from Qajar Period*, “Persian Documents” Series, No. 9, Tokyo: Research and Information Center for Asian Studies, Institute for Advanced Studies on Asia, University of Tokyo, 2022.1, pp. 5-6 (in Persian).

③森本一夫「大英図書館所蔵手稿本 Or. 1306 と私」『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第3号、2021年4月、12-14頁

④森本一夫「現代イランのある大衆向けサイド論：バーゲリヤーン・モヴァッヘッド著『セイイェドたちの奇蹟』をめぐって」東文研シンポジウム ムハンマドの血筋とムスリム：預言者一族をめぐる多様な語りと語り手たち、オンライン開催、2021年9月18日

④森本一夫「マムルーク朝期のウラマーにおける詩作と学問：覚え詩を作るために勉強する」2021年度九州史学会、2021年12月12日

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして」課題番号 19H01317、研究代表者、2019年度～2022年度

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」課題番号 19H00564（研究代表者：赤堀雅幸）、研究分担者、2019年度～2023年度

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ムハンマド一族をめぐる諸言説の研究」（主任：森本一夫）、主任

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ペルシア語文化圏研究」（主任：森本一夫）、共同研究者

河原弥生（RASARL 准教授）

①河原弥生・鈴木舞編『ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料目録 1』（アジア研究図書館叢書1）、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2022年3月

③河原弥生「東京大学アジア研究図書館とサブジェクト・ライブラリアン（特集 トピックスで追う図書館とその周辺）」『図書館雑誌』116巻1号、2022年1月、26-27頁（招待）

④Kawahara Yayoi, “Nasab-nama and Tariqa in the 19th Century Ferghana Valley,” *Genealogical History in the Persianate World: An International Symposium*（オンライン開催）, The Sharmin and Bijan Mossavar-Rahmani Center for Iran and Persian Gulf Studies, Princeton University and The College of New Jersey, School of Humanities and Arts and Sciences, 2021年4月24日（招待）

④河原弥生「現代ウイグル語資料の概要と目録作成」アジア資料目録作成ワークショップ（現代ウイグル語編）、2021年8月4日

④河原弥生「中央アジアの女系サイドに関する系譜書」東文研シンポジウム「ムハンマドの血筋とムスリム：預言者一族をめぐる多様な語りと語り手たち」オンライン開催、2021年9月18日

④河原弥生「ウズベク文学の現在」2021年度日本ロシア文学会第71回全国大会プレシンポジウム「消えゆく記憶と繋がり—ソ連崩壊後30年の文学と社会を語る—」オンライン開催、

2021年10月29日（招待）

④河原弥生「アジア研究図書館の始動：全学組織としての体制構築に向けて」国立国会図書館関西館令和3年度アジア情報関係機関懇談会「コロナ禍におけるアジア研究・教育支援」オンライン開催、2022年2月18日（招待）

④河原弥生「学術資産と研究拠点：コレクション構築と知の接続ハブとしてのアジア研究図書館」東京大学人文社会科学系組織連絡会議共同シンポジウム「人文社会科学の構想力」オンライン開催、2022年3月9日

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「19世紀初頭の中央アジア知識人の著作と世界認識：歴史叙述と旅行記の検討を通して」課題番号21K00903、研究代表者、2021年度～2024年度

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして」課題番号19H01317（研究代表者:森本一夫）、研究分担者、2019年度～2022年度

⑦非常勤講師 東京外国語大学言語文化学部「現代ウズベク語の成立」

⑦非常勤講師 早稲田大学文化構想学部「多元文化論系演習（遊牧・オアシス文化論）中央アジアの歴史と文化」

⑦非常勤講師 駒澤大学文学部「東洋史特講V」

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ムハンマド一族をめぐる諸言説の研究」（主任:森本一夫）、共同研究者

河崎豊（RASARL 助教）

①河崎豊、藤本有美、藤永伸、堀田和義 “New and Rare Words” Collected by Helen M. Johnson from Hemaçandra’s *Triṣaṣṭisālākāpuruṣacaritra*. U-PARL Cooperative Research in Asian Studies Series. Tokyo: Uehiro Project for the Asian Research Library, The University of Tokyo Library System, 2022.

②河崎豊「出家者と「嘘も方便」」『ジャイナ教研究』第27号、2021年、1-22頁

④河崎豊「衣の裁断は暴力か」日本印度学仏教学会第七十二回学術大会（大谷大学）、オンライン開催、2021年9月4日

④河崎豊「嘘も方便—ジャイナ教における—」東洋大学大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻大学院生発表会、オンライン開催、2021年11月24日（招待）

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「アーヴァシュヤカ文献を中心とする「身体放棄行」というジャイナ教瞑想法の総合的研究」課題番号21K00048、研究代表者、2021年度～2023年度

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「上座部文献の研究」（主任：馬場紀寿）、共同研究者

鈴木舞（RASARL 助教）

①飯島武次監修、角道亮介・鈴木舞・大日方一郎・湯沢丈・菊地大樹編『国際研究集会研究発表概要集 秦の淵源—秦文化研究の最前線—』、外為印刷、2021年6月

①河原弥生・鈴木舞編『ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料目録1』（アジア研究図書館叢書1）、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2022年3月

- ①鈴木舞ほか『秦の淵源 秦文化研究の最前線』(Humanities Center Booklet Vol.14)、東京大学ヒューマニティーズセンター、2022年3月
- ①鈴木舞編『契丹金工品の調査と研究—日本所蔵コレクション資料を中心に—』、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2022年3月
- ①鶴間和幸・東京新聞編『兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～』、「銘文青銅尊」52頁、「蟠螭紋青銅壺」53頁、「窃曲環帯紋青銅甗」54頁ほか計23項目、分担執筆、2022年3月
- ②鈴木舞「婦好墓からみる殷墟青銅器の生産とその展開」、大貫静夫編『中国考古学論叢—古代東アジア社会への多角的アプローチ』同成社、2021年5月、101-128頁
- ②松本圭太・飯塚義之・鈴木舞「内蒙古・長城地帯における青銅刀子の型式と金属化学組成：木村武山コレクションの調査を基礎に」『中国考古学』21号、日本中国考古学会、2021年12月、55-71頁
- ②鈴木舞「契丹の金工技術(第2報・前編)—東京大学文学部考古学研究室所蔵金属製帯金具の製作技法—」『FUSUS』第14号、アジア鑄造技術史学会、2022年2月、95-103頁
- ②鈴木舞・飯塚義之「契丹の金工技術(第2報・後編)—東京大学文学部考古学研究室所蔵金属製帯金具の金属成分—」『FUSUS』第14号、アジア鑄造技術史学会、2022年2月、104-110頁
- ③鈴木舞「国際研究集会「秦の淵源—秦文化研究の最前線—」開催報告」『アジア研究図書館』第5号、東京大学アジア研究図書館、2021年10月、4頁
- ③鈴木舞「2021年度図書館総合展 出展報告」『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第6号、東京大学アジア研究図書館、2022年1月、1-5頁
- ④鈴木舞「春秋秦国における青銅器生産の始まり」国際シンポジウム「秦の淵源—秦文化研究の最前線—」東京大学ヒューマニティーズセンター(オンライン開催)、2021年6月20日
- ④鈴木舞・飯塚義之「契丹の金工技術—早稲田大学會津八一記念博物館蔵穴澤コレクションの金属製帯金具の研究—」アジア鑄造技術史学会第14回大会、富山大学(オンライン開催)、2021年8月21日～9月5日
- ④松本圭太・飯塚義之・鈴木舞「木村武山コレクションにおける中国北方系青銅器とその化学分析」草原考古研究会2021年11月例会、オンライン開催、2021年11月27日
- ④鈴木舞・飯塚義之「木村武山コレクションにみる契丹金工品の製作技法と金属成分」草原考古研究会2021年12月例会、オンライン開催、2021年12月11日
- ⑤アジア鑄造技術史学会研究奨励賞(若手部門)受賞、2021年9月
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(若手研究)「中国殷周時代における青銅器製作技法の研究」課題番号19K13405、研究代表者、2019～2022年度
- ⑥公益財団法人鹿島学術振興財団2019年度研究助成「中国遼代の金属工芸に関する考古学的研究—日本所蔵コレクション資料の活用—」研究代表者、2020～2021年度
- ⑥令和2年度昭和会館研究助成、近代日本の中国・朝鮮調査と学術研究—東洋文化研究所新収の澤口文庫・谷井濟一関連資料を中心に—(研究代表者：植田喜兵成智)、研究分担者、2020年10月～2021年6月
- ⑥東京大学研究連携機構ヒューマニティーズセンター公募研究B(国際研究集会助成)、「秦の淵源—秦文化研究の最前線—」、研究代表者、2021年6月
- ⑦非常勤講師 茨城大学人文社会学部「中国考古学II」

(2) U-PARL メンバー

菘輪顕量 (U-PARL 部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科)

- ①菘輪顕量『瞑想でたどる仏教—心と身体を観察する』「NHK 心の時代 宗教・人生」NHK 出版、2021 年 4 月
- ②菘輪顕量「日本における玄奘の門下生に見る修行道—道昭と行基」佐久間秀範・近本謙介・本井牧子編『玄奘三蔵—新たなる玄奘像を求めて』勉誠出版、2021 年 12 月、259-271 頁
- ②菘輪顕量「仏教学から見たマインドフルネス」『心理学評論』Vol.64、No.3、2022 年 2 月、354-362 頁
- ②菘輪顕量「日本の初期法相宗に見る修行—道昭・行基・徳一を中心に」『日本印度学仏教学研究』第 70 巻第 2 号、2022 年 3 月、533-540 頁
- ④菘輪顕量「古代法相宗僧侶の修行—道昭・行基・徳一を中心に」日本印度学佛教学会第 72 回学術大会、大谷大学主管 (オンライン開催)、2021 年 9 月 4 日
- ④Kenryo Minowa, “The Development of the Practice in the Buddhism.” Guangang University, Korea, Dec. 3 Symposium, 2021 (招待講義)
- ④菘輪顕量「瞑想でたどる仏教—心と体を観察する」駒澤女子大学・成道会記念講演会、駒沢女子大学 (オンライン開催)、2021 年 12 月 8 日 (招待)
- ④菘輪顕量「最澄の考える菩薩の修行道」龍谷大学世界仏教文化研究センター主催 伝教大師最澄遷化 1200 年記念国際シンポジウム「伝教大師最澄に学ぶ—現代における真実を求める心」龍谷大学、2021 年 12 月 19 日
- ④菘輪顕量「マインドフルネスと慈悲」日本マインドフルネス学会第 8 回大会「マインドフルネスとコンパッション」ラウンドテーブルセッション、琉球大学 (オンライン開催)、2021 年 12 月 26 日
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (挑戦的研究 (開拓))「仏教学・心理学・脳科学の協同による止観とマインドフルネスに関する実証的研究」課題番号 20K20323、研究代表者、2020~2021 年度
- ⑦日本放送協会 E テレ『こころの時代』テーマ「瞑想たどる仏教—心と体を観察する」出演

上原究一 (U-PARL 副部門長・兼務教員/東洋文化研究所)

- ②上原究一「明末清初の坊刻における江西の位置付けについて」藤本幸夫編『書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史』勉誠出版、2021 年 6 月、768-785 頁
- ③上原究一「三国演義」・「水滸伝」・「西遊記」・「通俗小説に作者はいるの？」・「終わらせたくない病—後・続・新の小説」武田雅哉・加部勇一郎・田村容子編『中国文学をつまみ食い—『詩経』から『三体』まで』ミネルヴァ書房、2022 年 2 月、54-59 頁、196-197 頁 (事典項目)
- ④上原究一「再談虎林容與堂的出版活動」(中国語) 2021 年第二十届中国古代小説戯曲文献暨数字化学術研討会、広州大学主管 (オンライン)、2021 年 9 月 21 日
- ④上原究一「『水滸伝』諸版本の挿画について—容与堂刊本を中心に」中国古典小説研究会 2021 年度大会 (オンライン)、2021 年 12 月 12 日
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (若手研究)「明末清初における官刻・家刻・坊刻それぞれの実態の研究」課題番号 19K13087、研究代表者、2019 年度~2021 年度
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (基盤研究 (A))「江戸幕府紅葉山文庫の再構と発信

—宮内庁書陵部収蔵漢籍のデジタル化に基づく古典学— 課題番号 20H00013 (研究代表者：住吉朋彦)、研究分担者、2020年度～2024年度

大串和雄 (U-PARL 兼務教員/大学院法学政治学研究科)

②大串和雄「ラテンアメリカの移行期正義の特徴—多様な移行期正義像に向けて」『国際政治』第207号、2022年3月、49-64頁

③マチアス・スペクトル「第10章 核革命と覇権的序列化—南米における『ヒロシマ』の影響」マイケル・D. ゴーディン、G. ジョン・アイケンベリー編、藤原帰一・向和歌奈監訳『国際共同研究 ヒロシマの時代—原爆投下が変えた世界』岩波書店、2022年3月、155-168頁 (翻訳)

⑦非常勤講師 国際基督教大学教養学部「ラテンアメリカの政治と国際関係」

⑦非常勤講師 立教大学法学部「平和研究」

海野聡 (U-PARL 兼務教員/大学院工学系研究科)

①海野聡『奈良で学ぶ 寺院建築入門』集英社、2022年2月

②海野聡「饗宴からみた日本の古代宮殿の空間構成」『聖と俗の界面』(空間叢書4) 岩田書院、2021年11月

④Satoshi Unno, “Traditional Technology Inheritance in Repairing Japanese Cultural Properties.” GAYI Taiwan Traditional Craft Exhibition and International Academic Seminar, 国立台湾藝術大学 (オンライン)、2021年10月16日 (基調講演)

④Satoshi Unno, “Research on the History of Construction System and the Possibility of Craftsman's Documents in the Early Modern Japan.” 国際研究集会「御所 (宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」、2021年12月18日

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (基盤研究 (B))「古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質」課題番号 18H01618、研究代表者、2018年度～2022年度

永井正勝 (U-PARL 副部門長・特任准教授)

②永井正勝「デジタル技術を用いた古書体学：シンポジウム参加報告」小風尚樹 他編『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』文学通信、2021年7月、230-237頁

②永井正勝「NY ブルックリン・ブルワリーのヒエログリフ文の原文を求めて：エジプト語研究における暗黙知の可視化」『一般言語学論叢』第24号、2021年12月、15-40頁

③宮川創・吉野宏志・永井正勝「ロゼッタストーン読解編 (3/4)」(第22回)『古代エジプト語のヒエログリフ入門：ロゼッタストーン読解』ひつじ書房ウェブマガジン未草 (<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/2021/06/11/hieroglyph-22/>)、2021年6月11日

③永井正勝「JSesh ユーザーズガイド【基本編】」東京大学学術機関リポジトリ (<http://hdl.handle.net/2261/0002000750>)、2021年7月22日

③永井正勝「JSesh ユーザーズガイド【中級編】」東京大学学術機関リポジトリ (<http://hdl.handle.net/2261/0002000751>)、2021年7月25日

③永井正勝「古代エジプト文明が残した伊吹」『母の友』10月号、2021年10月、28-33頁

③永井正勝「第3回協働型アジア研究オンラインセミナー「古代エジプト資料の記録、分析、

利活用を考える」開催報告』『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第5号、2021年10月、3頁

③宮川創・吉野宏志・永井正勝「ロゼッタストーン読解編(4/4)」(第23回)『古代エジプト語のヒエログリフ入門：ロゼッタストーン読解』ひつじ書房ウェブマガジン未草 (<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/2021/10/12/hieroglyph-23/>)、2021年10月12日

③永井正勝「シャンポリオン『ヒエログリフの体系概説』荒川慎太郎・本田直美編『「解説！アジアの古代文字(2021)」パンフレット』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2021年、14頁(展示品解説)

③永井正勝「近年のエジプト文字研究」荒川慎太郎・本田直美編『「解説！アジアの古代文字(2021)」パンフレット』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2021年、15頁

④永井正勝「古代エジプト文字研究のための術語を考える」オンライン公開ワークショップ「アジア文字研究術語の再検討」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)—文字学に関する既存術語の再検討」)(オンライン開催)、2022年3月5日

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究(C))「古代エジプト神官文字写本の地域差を含めた言語記述とIIIF検索プラットフォームの構築」課題番号21K00472、研究代表者、2021年度～2023年度、

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(挑戦的研究(萌芽))「アジアの文字研究を対象とした、「字形」研究基盤の構築」課題番号19K21628(代表：荒川慎太郎)、研究分担者、2019～2021年度

⑦東京大学大学院人文社会系研究科「エジプト語」

⑦早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

⑦東京外国語大学、AA研究共同利用・共同研究課題「アジア文字文化基盤の構築(2)」共同研究員(代表：荒川慎太郎)

徳原靖浩(U-PARL 特任助教)

③徳原靖浩「大学図書館におけるアジア資料の分類付与状況と、目録業務に関する提言」『メタデータ評論』第1号、2021年5月、47-54頁

③徳原靖浩「メフルジュイー『ハームーン』(アジア映画の迷宮第4回)『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第4号、2021年7月、11-13頁

③徳原靖浩・中村菜穂「増補新版にあたって」黒柳恒男『増補新版ペルシア文芸思潮』東京外国語大学出版会、2022年3月、i-iv頁

③中村菜穂・徳原靖浩「さらに知りたい人のための文献案内」黒柳恒男『増補新版ペルシア文芸思潮』東京外国語大学出版会、2022年3月、389-408頁

④徳原靖浩「アジア資料整理の現場から」U-PARL WORKSHOP「アジア資料目録作成ワークショップ：現代ウイグル語編」(U-PARL主催,RASARL協力)東京大学(オンライン開催)、2021年8月4日

⑦非常勤講師 東京外国語大学世界教養プログラム「ペルシア語講読II」

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ペルシア語文化圏研究」(主任：森本一夫)、共同研究者

荒木達雄 (U-PARL 特任研究員)

- ③荒木達雄「日本東京大学亞洲研究図書館『水滸伝数位資料庫』和東京大学所蔵『水滸伝』版本簡介」『中国文哲研究通訊』(中央研究院中国文哲研究所) 第 31 卷第 3 期、2021 年 9 月、207-236 頁
- ④荒木達雄「石渠閣出版活動和『水滸伝』之補刻」シンポジウム「古典文学新視野：写本、出版与収蔵研習營」台湾大学中国文学系、2021 年 11 月 6 日 (依頼講演)
- ④荒木達雄「日本人如何閲読『水滸伝』？—以『水滸伝全本』為例」第 17 回文化交流史：「観念的旅行」国際学術研討会、輔仁大学歴史学系、2021 年 11 月 13 日
- ⑦非常勤講師 桜美林大学リベラル・アーツ学群「中国文言文・漢文入門」、「中国古典文学研究 A」、「中国古典文学研究 B」
- ⑦非常勤講師 神奈川大学国際日本学部「日本語演習I/留学生対象中日翻訳」

澁谷由紀 (U-PARL 特任研究員)

- ③澁谷由紀「『ベトナム映画』の広がり」『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第 5 号、2021 年 10 月 1 日、8-10 頁
- ③Yuki Shibuya, “KOMATSU Miyuki A Watch Comes Back to Life: Former Japanese Soldiers Who Remained in Vietnam and Their Families.” In *Japan Oral History Review* (『日本オーラル・ヒストリー研究』) 17、2021 年 10 月、205-207 頁
- ③澁谷由紀「ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集」第 23 回図書館総合展 2021_ONLINE_plus ポスターセッション (オンライン開催)、2021 年 11 月 (ポスターセッション報告添付資料)
- ③澁谷由紀・宇戸優美子・佐藤章太編「ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集」『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第 6 号、2022 年 1 月、6 頁
- ③澁谷由紀「2021 年度海外学術調査フェスタ参加報告」藤倉哲郎・澁谷由紀・小川有子・柳澤雅之編『百穀社通信』20 号 (CIRAS Discussion Paper 109)、2022 年 3 月、95-101 頁
- ④澁谷由紀・藤倉哲郎・小川有子・柳澤雅之「長期定点農村調査における研究活動の継承とデータの共有—1990 年代以降のベトナム・バックック研究の事例から」2021 年度海外学術調査フェスタ (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催) (オンライン開催)、2021 年 6 月 20 日
- ④澁谷由紀・大泉さやか「日本におけるベトナム関係資料の保存と活用：次世代への継承をめざして」日本ベトナム研究者会議主催研究会 (オンライン開催)、2021 年 8 月 1 日
- ④Yuki Shibuya, “Push-pull Factors in Rural-urban Migration Inflows to Saigon between 1945 and 1975: A Study Using Oral History Sources.” XXI IOHA (The International Oral History Association) Virtual Conference 2021 (Online), 26 August 2021. (Poster and video)
- ④澁谷由紀・宇戸優美子「東京大学アジア研究図書館の東南アジア関係コレクション—寄贈資料とその受入過程を中心に」第 23 回図書館総合展 2021_ONLINE_plus ポスターセッション (オンライン開催)、2021 年 11 月 (ポスター)
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (若手研究)「GIS を利用した近現代史資料の集約・可視化によるベトナム南部村落の類型化」課題番号 19K13441、研究代表者、2019~2022 年度
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)・一般)「ベトナム紅河デルタ村落における共同体の再編—生計の多様化と生活の安定化」課題番号 21H03707 (研究代表者：柳澤

雅之)、研究分担者、2021~2025年度、

⑥京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」、共同研究課題、「村落データベースの高度利用を通じたベトナム農村の長期社会経済変容」(代表:藤倉哲郎) 2021年度

⑦非常勤講師 法政大学通信教育部「東洋史特講(東南アジア史)」

⑦非常勤講師 法政大学文学部「東洋史特講II」

⑦非常勤講師 放送大学教養学部「ベトナム近現代史」

⑦非常勤講師 神田外語大学外国語学部「ベトナムの文化・芸術」

須永恵美子(U-PARL 特任研究員)

②須永恵美子「多言語社会におけるウルドゥー語教育の選択」小原優貴編『教育からみる南アジア社会』玉川大学出版、2022年3月、124-130頁

②須永恵美子「学校教科書の中の多文化・多宗教共生」『教育からみる南アジア社会』小原優貴編『教育からみる南アジア社会』玉川大学出版、2022年3月、188-196頁

③須永恵美子「英領植民地期の観光と広告出版: アンティーク・ポスターで旅するパキスタン」『パーキスターン』第273号、2021年7月、1-5頁

③須永恵美子「アジアの言語・文字体系 第6回—こだわりのウルドゥー語フォントの世界—」『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第6号、2022年1月、5-7頁

③須永恵美子「100年前のイギリス人の歩き方」『パーキスターン』第275号、2022年1月、32-37頁

③須永恵美子「アフガニスタン」NHK 放送文化研究所編『データブック世界の放送 2022』NHK 出版、2022年3月、189-191頁

④須永恵美子「マイノリティの巡礼と開発: 多文化社会パキスタンにおける宗教観光」観光学術学会第10回大会、京都外国語大学(オンライン)、2021年7月4日

④須永恵美子「多言語国家における共通語としてのウルドゥー語研究: 人文情報学的調査の可能性」日本南アジア学会第34回全国大会、専修大学(オンライン)、2021年10月9日

④Emiko Sunaga, "Immigrant Connectivity between South Asia and the Gulf: A Case of Oman." The 2021 International Conference of Korean Association for Middle East Studies with Asian Federation of Middle East Studies Associations (KAMES and AFMA), Seoul, Korea (Online). 15th October 2021.

④須永恵美子「パキスタンの言語政策の変遷と国語教育」大学英語教育学会言語政策研究会(オンライン)、2021年10月16日

④須永恵美子「パキスタンの魅力発見!」杉並区海外文化セミナーパキスタン、杉並区立杉並第四小学校跡施設、2021年10月24日

④Emiko Sunaga, "Communication of Muslim Intellectuals: Translations of Kitabs from South Asia to Southeast Asia in the Nineteenth Century." The 4th Asian Consortium for South Asian Studies (ACSAS) Symposium. Vietnam Academy of Social Sciences, Vietnam (Online). 19th November 2021.

④須永恵美子「パキスタンの宝石市場とジュエリーの需要」日本・パキスタン協会第35回シンポジウム・パーキスターン『宝石の国パキスタン』、日本大学文理学部、2021年11月20日

④Emiko Sunaga, "Recording Sikh Pilgrimages in Pakistan: A Study using Digital Archives of South Asian Newspapers." The 12th Annual International Religious Tourism and Pilgrimage Conference (IRTP). Catholic University of Portugal in Braga, Portugal (Online). 2nd December 2021.

- ④須永恵美子「多言語社会と『誰でもわかる言葉』」科研費学術変革領域研究 (A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」総括班 2021年度イスラーム信頼学全体集会（オンライン）、2022年3月14日
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「デジタル・コミュニケーション時代のウルドゥー語の地位を巡る基礎的研究」課題番号 21K17936、研究代表者、2021～2025年度、
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（学術変革領域研究（A））「やさしいウルドゥー語と多言語社会の言語サービスを巡る基礎的研究」課題番号 21H05373、研究代表者、2021～2022年度、
- ⑦非常勤講師 日本女子大学人間社会学部「社会と文化：イスラム」
- ⑦非常勤講師 高崎商科大学短期大学部「多様性と社会」
- ⑦立命館大学立命館アジア・日本研究機構「南アジアにおけるウルドゥー語の広域性と宗教出版」、客員協力研究員

中尾道子（U-PARL 特任研究員）

- ④中尾道子「高麗大学校博物館蔵『北関遺蹟図帖』の史的位罫—朝鮮絵画における戦闘イメージの系譜—」朝鮮史料研究会、2021年6月21日
- ④中尾道子「壬辰戦争の記憶と絵画—『北関遺蹟図帖』『倡義討倭』を中心に—」第8回壬辰戦争研究会（U-PARL 協働型アジア研究）、2021年8月21日
- ④Michiko Nakao, “On Korean-related Materials in University of Tokyo Collection.” The 1st Korea-US Symposium “The Current Status and Use of Magazines in Modern Korea (1900-1945),” The Institute of Korea Independence Movement Studies, The Independence Hall of Korea, Korea (Online), 31st March 2022.
- ⑤Jee-Young Park, Kyeong-Hee Choi, Hyoungbae Lee, Michiko Nakao, Jude Yang, Yuan Zhou, “Bibliography of East Asian Periodicals (Colonial Korea 1900-1945).” UChicago Global Provost’s Global Faculty Award 2021-22, The University of Chicago, 1st July 2021.
- ⑥東京大学史料編纂所特定共同研究共同研究員、2021年度共同利用・共同研究拠点「複合史料領域：東アジアの合戦図の比較研究」（代表者：須田牧子東京大学史料編纂所准教授）
- ⑥UChicago Global Provost’s Global Faculty Award (PGFA) for FY22 “Bibliography of East Asian Periodicals (Colonial Korea 1900-1945)” プロジェクトリーダー
- ⑦非常勤講師 京都芸術大学芸術学部（東京外苑キャンパス）「アジア美術論」

宮本亮一（U-PARL 特任研究員）

- ②宮本亮一「西方と北方からの侵入者たち：ササン朝、フン、イスラム」前田耕作・山内和也編『アフガニスタンを知るための70章』明石書店、2021年、52-55頁
- ②宮本亮一「カダグスターンからの手紙」『西南アジア研究』92号、2021年、49-75頁
- ④宮本亮一「アフガニスタン周辺のコイン」シルクロード学研究会 2022冬、帝京大学文化財研究所（オンライン）、2022年1月22日
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「古代中央アジアにおけるフン系集団の研究」課題番号 20K13198、研究代表者、2020～2023年度
- ⑦京都大学人文科学研究所、非常勤研究員
- ⑦京都大学、人文科学研究所、共同研究「前近代内陸アジアとその隣接地域の社会と文化」（班長：稲葉穰）、班員

3. 研究事業

⑦東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題「「インド世界」の形成:フロンティアを視座として」(代表:小倉智史)、共同研究員

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ペルシア語文化圏研究」(主任:森本一夫)、共同研究者

4. 構成員等名簿

4.1 運営委員会名簿

令和3年度のアジア研究図書館運営委員会名簿は以下の通りである。

城山智子（委員長/大学院経済学研究科）
森本一夫（副委員長/東洋文化研究所）
平野聡（大学院法学政治学研究科）
佐川英治（大学院人文社会系研究科）
松本武祝（大学院農学生命科学研究科）
平島健司（社会科学研究所）
荻部直（附属図書副館長/大学院法学政治学研究科）
蓑輪顕量（大学院人文社会系研究科）
永井正勝（U-PARL）
河原弥生（RASARL）
木下聡（附属図書館事務部長）

4.2 構成員名簿

令和4年3月31日現在の構成員は以下の通りである。

館長：城山智子（大学院経済学研究科）

RASARL構成メンバー

城山智子（部門長・兼務教員/大学院経済学研究科）
森本一夫（兼務教員/東洋文化研究所）
河原弥生（准教授）
河崎豊（助教）
鈴木舞（助教）

U-PARL構成メンバー

蓑輪顕量（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）
上原究一（副部門長・兼務教員/東洋文化研究所）
森本一夫（兼務教員/東洋文化研究所）
大串和雄（兼務教員/大学院法学政治学研究科）
海野聡（兼務教員/大学院工学系研究科）
永井正勝（副部門長・特任准教授）
徳原靖浩（特任助教）
荒木達雄（特任研究員）
澁谷由紀（特任研究員）
須永恵美子（特任研究員）
中尾道子（特任研究員）
宮本亮一（特任研究員）

別紙1

東京大学アジア研究図書館資料収集基準

(趣旨)

東京大学アジア研究図書館（以下、「アジア研究図書館」という。）に備え付ける資料を収集する際の基準を定める。

(基本方針)

アジア研究図書館は、自らの理念に基づき、アジアの理解に資する東アジア、東南アジア、南アジア、中央ユーラシア、西アジアおよびアジア全域に関わる資料を、当該地域の言語で書かれたものからそれ以外の言語で書かれたものに至るまで、広く収集する。なお、上記の資料には、アジア諸地域における日本研究資料を含める。

(収集資料の形態)

アジア研究図書館は、冊子体の図書および逐次刊行物のほかに、デジタル資料、オーディオヴィジュアル資料、マイクロ資料等を必要に応じて適宜収集する。

(収集資料の種類)

アジア研究図書館は、以下の資料を中心として収集する。

(1) 研究資料

アジアの理解に資する研究資料

(2) 研究書

アジアに関する研究書・研究入門書等

(3) 参考資料

アジア研究に必要な辞典、書誌・目録、索引等の参考資料

(4) 図書館関係資料

アジアを対象とする専門図書館の機能・運営等に関する資料

(収集資料の選定)

収集する資料の選定は、アジア研究図書館選書委員会が行う。

令和 3 年度東京大学アジア研究図書館活動報告書

令和 4 年 6 月 30 日 発行

編集・発行 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>